

潜在能力は無限大。
次はアフリカが
世界のニューモデルに!?

経営学部 国際経営学科

高山 晃郎 先生

金融分野は幅が広く、興味のあるものから入っていけるのが魅力と語る先生。「今、アフリカ大陸を研究対象にできるのも、金融の研究をしてきたからです。一般企業やメーカーにおいても、為替レートを見たり資金調達をしたりと、金融は身近な存在。つまり、どんな仕事に就いても関わってくる可能性のある分野と言えます」。



AFRICAN
Continent



国家が発展するとき
金融の果たす役割は？
そのナゾを探りたい。

世界の中で経済的に発展している国と発展していない国があるのは、なぜ？と思ったことはありませんか。私はその理由を説明するため、経済成長が加速しているアフリカ大陸に注目しています。現在は54カ国あるのですが、それぞれに自国通貨を持ち、インフラなどの条件も各国バラバラ。製造業を中心に成長してきたアジアのようにはいきません。これまでの途上国モデルは通用せず、今までになかったケースが生まれるかもしれないのです。そこで金融の視点から、各国の発展において銀行がどういう役割を果たしているのかを探り、今後の動向も見たいと思っています。

誰にとっても役に立つ。
将来のために学びたい
金融の知識。

一見とっつきにくい金融分野ですが、欧米では小・中学生の頃から金融教育が行われるように、金融の知識は人生設計の役に立ちます。働くようになれば給料を自分で管理しなければいけませんし、住宅ローンの金利は適正か、老後に必要な貯蓄額はいくらかなど、資産形成のために自分で考える判断材料となるのが金融の知識です。NISA(少額投資非課税制度)が始まり、今後は株に投資する機会も増えていくでしょう。なぜか日本人はハイリスク・ハイリターンを求める傾向がありますが、営業担当者に言われるまま買っても、結果は自己責任。痛い目に遭わないためにも、金融の基礎知識は身に付けておきたいですね。



ケインズ全集 第6巻 貨幣論II 貨幣の応用理論
長澤惟恭 訳/東洋経済新報社

イギリスの経済学者ジョン・メイナード・ケインズによる貨幣論。貨幣で国を分析しようと試みた本で1930年に発表されたものですが、今なお有益なところがあります。ぜひ、時間のある大学時代に読んでもらいたいですね。



私の
マストアイテム

